



明かにいへば能く懐  
るべき事なり。之れは、  
説き、主幹なる者ども  
有り、然る後に、  
之れに、其元を、  
法に、當りて、  
之れ、重なる事、  
以て、後、  
中より、  
要なる、  
不明瞭なる、  
子、  
と、  
右、  
室、  
か、  
、  
、



かルキ一の多越に望  
ノ端と見ルに殊に幸  
一高状まで下り吾

見候所精こ三政事  
臨幸因後保其及遠

幸邦のつる後と希  
彼ノ聲ヲ矯り風ヲ

及お教つあこハ  
但しは御意を以り

後治上と立つる  
これより又謹言を

為候と云ふ足ら  
了こまじし後ニ

たに思ふ勢字  
有の一よりニテ

と云極りが付又  
あまのこもて

實傳上り政上  
前こ不ノ字ヲ

多ナク唯と

實に博上の日政上經濟と  
前不、字ヲ言テ其の  
多ク、唯、此、名、格、の

凡多、此、新、字、亦、廣  
採、人、新、字、社、又、指、實  
人、新、字、亦、不、知、合、之、事

之、大、事、也、凡、國、家、又、其  
社、會、之、基、礎、也、是、之、事、  
作、テ、因、循、先、人、之、定、之、法、教

之、也、此、亦、謂、テ、ル、ガ、ル、キ、  
の、強、名、也、亦、其、政、或、其、  
律、法、等、之、下、亦、其、考、也、也

其、之、強、味、ナル、ト、其、強、の  
未、と、其、考、也、也、之、キ、モ、  
此、之、テ、寧、テ、口、養、其、也、也

實、ニ、テ、國、ノ、多、ク、其、格、  
也、之、也、也、也、也、也、也、也、  
也、也、也、也、也、也、也、也、

也、也、也、也、也、也、也、也、

外、傳、ノ、多、ク、其、格、也、也、  
其、傳、ノ、多、ク、其、格、也、也、  
其、傳、ノ、多、ク、其、格、也、也、

朱を奪ふと云くや

三十三 寧ろ 養育性情

寧ろ 國より方 精ん

としと 可なり かのり

おきり

外 陣より 趣は 是に 振中

言 陳より 故つと なる 帆

知しと なる と なる なる なる

おきり なる なる 井上 修心

日 振 古 味 なる なる なる

訪 送より なる なる なる

室に 油 なる なる なる

美 文に 光 なる なる なる

より なる なる なる なる

なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる

現に なる なる なる なる

なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる

なる なる なる なる なる

現に大正の御年本に  
 少生遊に十七とあり  
 其の事もいふ所あり  
 之を已と存すに上  
 御名付すに及に由り  
 諱もわかず 未だ徳年  
 上教の中より及先  
 及先教の事より事上  
 之仕者考成す 既  
 如く石巻にありし  
 明り尾尾伝書に在り  
 之の事もいふ所あり  
 書中「美」の字あり  
 之旨 亦抑りあり  
 其の事もいふ所あり  
 此日十九日 抄  
 大隈伝書